

日本作家クラブのあゆみ

一九四九(昭和二四) 七月 七日

一月

一月 六日

一九五一(昭和二六) 三月 一日

一九五二(昭和二七) 四月 一七日
四月 一日

一九五三(昭和二八) 二月 二五日
二月 八日

一九五四(昭和二九) 四月 五日
四月 七日

一九六〇(昭和三五)

一九六一(昭和三六)

一九六三(昭和三八)

一九六七(昭和四二)

一九七〇(昭和四五)

一九七三(昭和四八)

一九七四(昭和四九)

捕物作家クラブ発足 初代会長に野村胡堂就任 日本作家クラブの前身

「半七塚」建立 浅草・花やしき内

物故捕物作家慰霊祭 浅草寺／「半七塚」除幕式

第一回捕物まつり 捕物寸劇(文士・画家劇)『縁碑半七塚』

捕物作家クラブ合作『黒門町伝七捕物帳』 地方紙『京都新聞』で連載開始

(一九六〇(昭和三五)年一〇月 一〇年に及ぶクラブ史上最大のプロジェクト

所属する小説家、挿絵画家ら五〇人以上が参加

同名ヒット映画シリーズの原作 一九九七(平成一一)年から一部がビデオ発売

クラブの根本性格決定 文壇党派性排除／遊びと学び／親睦など 野村会長の希望

第四回捕物まつり 文士・画家劇『黒門町伝七旅日記』上演 浅草花月劇場

主な出演者 土師清二 (黒門町の伝七)

野村胡堂 (老中・堀田備中守)

江戸川乱歩 (遠山左衛門尉)

会員総出勤 戦災孤児救援の協力興行 劇場の協力で会場を無料使用

仮装行事 八芳園

捕物作家クラブ編『名作捕物小説集年鑑』(岩谷書店)創刊

黒岩涙香祭 探偵作家クラブと共演で文士・画家劇 浅草

映画『伝七捕物帖 人肌千両』(松竹)公開 映画版第一作 主演・高田浩吉

以後、一九六三(昭和三八)年まで松竹と東映が計一三作品を制作・公開

捕物作家クラブ共作小説『黒門町伝七捕物帳』(『京都新聞』連載)が原作

日本作家クラブと改称 野村胡堂の日記に記載

山手樹一郎 日本作家クラブ第二代会長就任 野村胡堂会長退任

初代会長・野村胡堂 「野村学芸財団」設立

初代会長・野村胡堂死去

「日本作家クラブ」創立総会 活動活性化へ向けた再生大会

「随筆手帳」創刊号発行

「銭形平次記念碑」建立 神田明神境内

第一回「日本作家クラブ賞」 井口朝生『雑兵伝』／『すみだ川余情』

第二回「日本作家クラブ賞」 陣出達朗『夏扇冬炉』

一九七六(昭和五一) 三月一六日 第四回「日本作家クラブ賞」 鹿島孝二『湘南滑稽譚』

一九七八(昭和五三) 三月一六日 第二代会長・山手樹一郎死去

一月一二日 半七まつり 仮装、犯人探し 浅草

一九八〇(昭和五五) 九月一六日 陣出達朗 第三代会長に就任

物故作家慰霊法要 浅草

一九八一(昭和五六) 四月八日 第七回「日本作家クラブ賞」授賞式 木屋進『花情記』

一九八六(昭和六一) 四月一九日 第三代会長・陣出達朗死去

一九八八(昭和六三) 春 大林清 第四代会長に就任

一九九二(平成 四) 一〇月七日 学び・研修会 随筆の部／小説の部 翌年秋

一九九四(平成 六) 九月三日 『文芸』創刊号発行

一九九七(平成 九) 四月二一日 捕物作家クラブ原作の映画『伝七捕物帖』シリーズ五作品のビデオ発売開始

松竹ホームビデオ 主演・高田浩吉 翌年五月にも第二弾として三作品を発売

一九九九(平成一一) 一〇月二七日 第四代会長・大林清死去

二〇〇七(平成一九) 八月二一日 創立六〇周年記念事業の検討開始 一案に仮称「野村胡堂賞」創設を提起

二〇〇八(平成二〇) 四月一九日 育成会開塾 第一回勉強会 日本ジャーナリスト専門学校 翌年秋

二月 仮称「野村胡堂賞」制定委員会仮発足

一月 仮称「野村胡堂賞」実行委員会・選考委員会仮発足

二〇〇九(平成二二) 三月一七日 若山三郎 理事長就任

一〇月一一日 若山三郎理事長死去

一月二〇日 創立六〇周年記念式典と祝賀会 浅草・5656会館／「半七塚」参拝

二月二六日 吉村卓三 理事長就任

三月七日 「銭形平次の碑」参拝

二〇一一(平成二三) 七月二三日 日本作家クラブ「一般社団法人」となる 初代理事長に吉村卓三就任

二〇一二(平成二四) 六月二三日 正式名称を「野村胡堂文学賞」として創設

八月 日本作家クラブFBP(フェイスブックページ)開設

九月八日 第一回「野村胡堂文学賞」作品推薦開始

二〇一三(平成二五) 七月四日 第一回「野村胡堂文学賞」受賞作決定 小中陽太郎『翔べよ源内』(平原社)

一〇月一五日 野村胡堂の墓前に文学賞創設を報告／第一回「野村胡堂文学賞」記者会見

二〇一四(平成二六) 一月三一日 第一回「野村胡堂文学賞」授賞式・祝賀会 浅草ビューホテル